

未病に取り組む多世代共創コミュニティの 形成と有効性検証

研究代表者：渡辺 賢治
(慶應義塾大学環境情報学部 教授)

実施者・協力者： 慶應義塾大学環境情報学部、総合政策学部、政策・メディア研究科、
浜松医科大学医学部、地域家庭医療学講座、高知大学教育研究部医療学系連携医学部門、
(株)アセナント、湯河原町役場地域政策課、介護課、湯河原町教育委員会、湯河原美術協会

実施地域： 神奈川県、神奈川県足柄下郡湯河原町

背景

- ・高齢化の進展による医療・介護費の増大。
- ・持続可能な社会の実現には健康寿命の延伸が不可欠。
- ・「未病対策」＝疾病予防及び病気や要介護状態の進展予防 が重要に。
- ・社会活動・運動・栄養が死亡率に、社会関係資本が主観的健康観に関連。
- ・社会では「関係性の病理」が台頭。 Ex.いじめ、引きこもり、虐待等

プロジェクトが目指すもの

<目標>

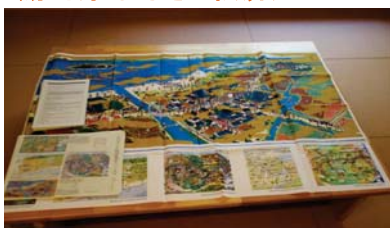
- ・人々をつなぐ『場』づくり。「斜交関係」「フラットな関係」の創出。
- ・「未病」取り組む多世代共創コミュニティの創造。
- ・健康寿命延伸、医療費・介護費削減。

<明らかにしたいこと>

- ・多世代関係が生きがい・レジリエンス・心身の健康・行動に及ぼす影響
- ・多世代共創の「場」や「活動」が、個人や人々の関係性、地域に与える影響

プロジェクトにおける持続可能性、多世代共創

湯河原ふるさと絵屏風PJ



人々の心に残る昭和30年代の町の風習や光景が描かれた絵屏風を多世代で制作・運用。

ゆがわらっことつくる多世代の居場所PJ



「安心して何でも話せる居場所」づくりに子供を中心とした多世代で取り組む。

ゆがわら多世代ふれあい劇場



プロの指導で「未病に取り組むまちづくり」の即興劇に取り組む。

多世代共創
コミュニティ

斜交関係
フラットな関係

生きがい・
レジリエンス
向上

健康行動
未病対策促進

健康寿命の延伸
医療・介護費抑制

湯河原ふるさと絵屏風

- ・「五感体験アンケート」(67名・630項目)「公開セミナー」を実施。(16年1月)
- ・湯河原町全域の老人会等で「ふるさと語り(ヒアリング)」実施予定。(2-8月)
- ・「ふるさと語り」の心身への影響についてプレ調査、倫理審査を終了。
- ・住民・学生等による多世代共創型の推進基盤を構築。
- ・絵屏風制作への子供・若者世代の参加促進が課題。



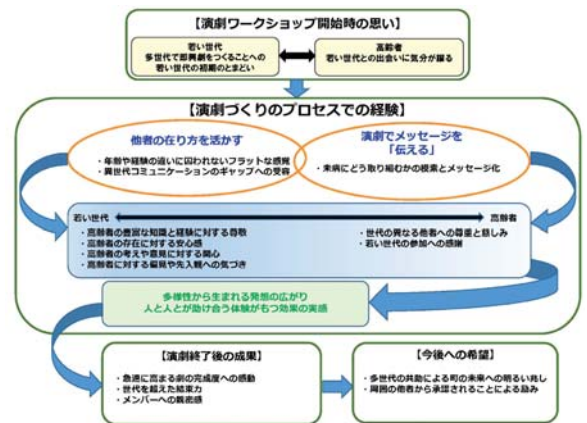
ゆがわらっことつくる多世代の居場所

- ・多世代の居場所づくりワークショップを4回開催。(11-72歳、延べ62名)(15年11-16年1月)。
- ・高齢者の方々だけでなく、子どもたちが多世代で交流できる居場所を求めていることが明らかになった。
- ・多くのこどもたち、お年寄りの方が通える拠点の選定と幅広い年齢層への告知、浸透が課題。



ゆがわら多世代ふれあい劇場

- ・「未病に取り組むまちづくり」をテーマに演劇ワークショップを4回開催。(4-87歳、計28名)(15年11-12月)。
- ・老人クラブ連合会大会で発表。
- ・半構造化面接を実施(9名)。
- ・相互理解・受容・尊重・承認を体験。結束感・親密さ・励みにつながった。



社会実装・成果の活用イメージ

多世代共創の斜交場

絵屏風	教育・遊びのツール 風習や文化を知る	観光・まちづくりのツール	文化伝承のツール 生きがい創出
演劇	個性に触れる体験 他者への尊敬	対等な共同作業の体験 関係性の構築	社会に貢献する成功体験 自己効力感の向上
居場所	安心できる場 レジリエンス(回復力)向上	多様な価値観に触れる場 対応力向上	つながりが生まれる場 新たな地域の取り組みへ

多世代共創コミュニティの形成⇒「未病」「社会の病理」を防ぐ